

「なぜ？」を持ちながら読む

四年(上) 二 段落のつながりに気をつけて読む

「ツバメがすむ町」(十一時間)



一 文章全体の構成に着目して

「ツバメがすむ町」は、四年で最初に登場する説明的文章です。文章全体は「話題提示↓問題提起↓調査1↓調査結果↓調査2↓調査結果↓まとめ」と調査の流れを押さえながら文章が展開します。

本単元での目標は「段落のつながりを考えて正しく文章を読む」ですから、「調査」のまとまりをつかみ、段落のつながりを考え、全体の段落構成を確認します。その際、児童に文章構成全体に着目した課題をもたせることで、「なぜそのような結果に至ったのか」という理由を読み解く流れを考えてみました。

二 「なぜ」を作る

この説明的文章の特徴は、「問題提起↓答え」が明確になっているところです。ただし、入れ子式構造になっていてやや複雑な文章構成です。ツバメの巣に対して、

「本当に数がへっているのか、本当だとしたら、なぜなのか。」

と問題提起をし、次の段落では、

学習活動

第一次(読むこと)

- ① 学習のめあてを確認し、学習計画を立てる。
- ② 全文を通読する。

第二次(読むこと)

- ③ 「問題提起↓答え」から「なぜ」を作る。
- ④ ⑤ 「どのようにしてツバメの数がへったと分かったのか。」について読み取る。(調査1)

＊文末の表現に着目しながら読む。
＊調査1の調査メモを作る。

- ⑥ ⑦ 「どうして町の様子が変わるとツバメの数がへるか。」について読み取る。(調査2)

＊これらのことをパンフレット形式でまとめてもらい、もしも。

第三次(書くこと)

- ⑧ 文末の表現に注意しながら短作文を書く。
- ⑨ ⑩ 文章構成を考えながら報告文を書く。
- ⑪ グループ発表会を開き、評価カードに記入する。

「ツバメがどんな場所に巣を作っているのか。」

と調査方法につながります。これまで、疑問が出たらその疑問を順次解決しながら読み進めていた児童にとつては違和感があるかもしれません。「なぜ」から「答え」までが遠いのです。しかし、このような「答え」が遠い文章構成には今後幾度となく出会うことになります。特に、このような調査や実験の研究発表では多く使われる構成です。項目ごとに内容がまとまっているか、まとまりごとの関係が整っているかに焦点を当てて読み進めることが求められます。そこで「問題提起↓答え」を見つけてから、「なぜ」そのような結果に至るのかという疑問を児童にもたせ、本文中には出てこない「なぜ」を作ることで、「理由づけ(調査1・調査2)」の内容について読み取ります。

三 指導計画(全十二時間)

目標

- ・段落ごとのまとまりと関係に気をつけて読む。
- ・調査の流れを意識して、段落のはっきりした文章を書く。

四 読み取ったことを書くことで確認する

第二次(三時間目)「なぜ」を作る

1 「問題提起(疑問)」を探す。

「本当に数がへっているのか、本当だとしたら、なぜなのか。」といったきもんがわいてきました。(段落2)

・疑問1 数がへっているのか。

・疑問2 (本当だとしたら) なぜなのか。

2 「答え」を探す。

全体として、ツバメはへっていました。そして、へり方のはげしい所は、町の様子が変わったためであることが分かりました。(段落1)

から、それぞれの答えを抜き出します。

・疑問1の答え(全体として) 数がへっていた。

・疑問2の答え 町の様子が変わったため。

3 「なぜ」を作る。

それぞれの答えに至るまでの過程について考える課題を作らせます。疑問1が「事実の判断」、疑問2が「理由」を求めていることに触れると、課題についての項目立てがしやすくなります。

・どのようにして「ツバメがへつた」と分かったのか。

・どうして「町の様子が変わるとツバメがへる」のか。

右のような課題を設定することで、「調査1」「調査2」の目的をより鮮明に読み取ることが出来ます。

第二次(四・七時間目) 課題について文章を正確に読む

二つの課題に対して「調査1」「調査2」について、それぞれの流れを確認しながら読み進めます。課題解決のために、次のような調査を表す言葉、調査結果を表す言葉(特に文末)に着目させてみました。

② ぎもんがわいてきました。

③ 調べてみることにしました。

④ 調べます。

(調査を行ったのは)

時期です。

のぞきこんでいきます。

見つけたら、～ 記録します。

しつもんして～ 書きます。

聞き取りを終えたら、～ 記録します。

⑤ (調べた結果を持ちより) 地図を作りました。

⑥ ～が分かりました。(調査の結果)

⑦ ～も分かりました。

※○数字は形式段落番号。

第三次(八時間目) 文末の表現を用いて短作文を書く

児童が「総合的な学習の時間」や「社会科」「理科」などで学習したことを振り返り、調べたことを項目ごとに書かせることで、段落ごとのまとまりを明確にさせます。もし、適当な題材が見つからない場合には教師から提示して、それに合わせて項目ごとに書かせてもよいでしょう。「調査の動機」「調査の結果」から記入させることで、「なぜ」をもちながら調査の流れについて書き進めることができます。また、発展的に、「調査の動機」では、読みの段階で着目した「事実の判断」「理由」についての疑問を設定させることも可能です。

五 評価について

・自分で作った「なぜ」について、項目立てて読み取ることができたか。(読むこと)

・調査の流れを意識し、「調査の動機」「調査の目的」「調査の方法」「調査の結果」などの項目に即して、段落のはっきりした文章を書くことができたか。(書くこと)

調査の動機

というぎもんがわいてきました。

調査の目的

について調べてみることにしました。

調査方法

(前述の調査方法を参考に具体的に書かせる。箇条書きでもよい。)

調査の結果

が分かりました。